（様式1）

自己評価票

参考様式

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
Ⅰ．理念に基づく運営						
1．理念の共有						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ひとりひとりに寄り添っておだやかな笑顔とより添えあえる暮らしを私たちの心で応援します」を理念としている		
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常にスタッフの目の届く場所に掲示している		
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎日の散歩時に近所の方との交流を図っている。またご家族には行事、イベントの際にお越し頂き、ホームの運営についてその都度ご報告している		
2．地域との支えあい						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	イベントの際に声を掛け、チラシなどを配り、参加を呼びかけている。また、両隣の農家との作物の交換が頻繁にある		
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		○	町会に加盟する事ができたので、町会などの催しなどにも参加していきたい。
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			地域の方々の相談窓口として広く門戸を開く。また相談窓口の利用についてホームページに掲載し、電話相談の受付もする
3．理念を実践するための制度の理解と活用						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善点は会議で話し合い、理解するよう努めている		
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に3回必ず行い、出された評価や意見に関してはスタッフ会議などに必ず取り上げ向上に活かしている		
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	柏市のGH連絡会や虐待防止委員として活動に参加、運営上でもご相談している		

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者家族から申し出があった際はアドバイスし、ﾄﾞｸﾀｰの紹介等もしている、現在1名申請中		
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	千葉県虐待防止研修を受けた職員が各棟1名ずつおり、虐待防止マニュアルをスタッフ全員で読み、防止に努めている		
4．理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては条文1つ1つにつきご説明をしている		
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情等には常に耳を傾け、何でも話せる信頼関係を築くよう努めている		
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、オアシスだよりでの健康面、生活面での変化等報告している		
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された際、日常の様子などお話しをし、ご要望も承っている。その都度責任者へ報告し、話し合う		
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案などは月に一度の会議で話し合い、反映させている		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご家族の意見や要望に応じて調整し、相談が受けられるよう努めている		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所当初から各ユニットの主要スタッフの移動はほとんどなく、離職に関しては職員と管理者との話し合いで、出きるだけ継続できるよう心がけている		
5．人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		○	ケア向上の為スタッフ全員が研修や講習会に順番に参加できるようにしている

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		○	職員全員が順番に参加できるようにしていきたい
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		○	日勤でも休憩が取れるようにしていきたい
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	積極的に資格の取得を促し、講習会や研修の受講を通じて向上心を持って働けるよう努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	環境の変化による戸惑いや動揺がある為、健康面、精神面への充分な配慮をする。他入居者への輪に入りやすいようにコミュニケーションを密に取るようにしている		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族とゆっくり話せる時間を設け、今までの大変さや苦労を真摯に受け止め共感し、家族の心のケアもできるようにしている		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族に希望を伺い、状況に応じて他のサービス利用もお勧めしている		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	2泊3日の体験入居期間を設けており、ご本人の様子などをご家族に報告し、検討できるようにしている		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	もう1つの家族として、お互いに支えあい、学びあえる関係を築こうと努力している		
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	オアシスでの暮らしを詳しく報告し、共感し合い一緒に支え合える関係を築けるよう努めている		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居（体験入居も含む）際にﾊﾞｯｸｸﾞﾗｳﾝﾄﾞなどを記入し、本人と家族の関係に理解を深め、より良い関係が築けるよう努めている		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が訪ねてきた時は快く迎える。電話も本人に取り次いでいる		

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	馴染めない利用者のためにレクを企画し、輪に入れ、その中で気の合う友人ができるよう支援している		
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方は来訪されたり、またこちらから新しい入居先へ訪問したりと、退所後も交友関係を続けている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1．一人ひとりの把握						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話から希望を聞いている。時には改まった状況で聞く事もある		
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを元に話し合いを進め、現在までの生活暦を踏まえた上で今後より充実した暮らしができるよう努めている		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎回の健康チェックは欠かさず行い、体験入居やﾊﾞｯｸｸﾞﾗｳﾝﾄﾞなどの情報と合わせ、総合的な把握に努めている		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	センター方式を利用することで入居者のニーズを具体的に知り、ケース検討に役立てている		ｾﾝﾀｰ方式をすることで個人とスタッフが1対1でゆっくりと話しをし、思いや本音を聞く事ができる為、介護計画に取り入れやすくなった
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケース会議で常に現在の状態を話し合い変化に応じてｹｱﾌﾟﾗﾝ、ケア方法を変更できるよう、迅速に対応している。また、定期的にﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞや、ｹｱﾌﾟﾗﾝの見直しを行っている		
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にはその日の様子を詳しく記入している。それに基づきケアプランの作成をしている		
3．多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームに内にとどまらず、広く外に出て活動できるよう支援している		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	様々なボランティアの受け入れをしている、また、防災訓練の際には地元消防署にも協力を依頼している		

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑは他の介護ｻｰﾋﾞｽを受ける事ができないので、連絡会独自でふれあいｺﾝｻｰﾄ、ﾊﾞｽ旅行等に積極的に参加している		
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護等は積極的に行っており、地域包括支援ｾﾝﾀｰとは年3回の運営推進会議に参加いただき連携している		
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターに2週間に1度往診に来ていただいており、ご本人、家族の希望する病院があればホームドクターに紹介状を書いてもらい受診している		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	上に同じ		
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームドクターと一緒に往診に来ていただいている看護士さんに相談し、ご支援いただいている		
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した病院には情報を提供している。お見舞いに行った際利用者の心のケアもしている		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護度4になった段階で家族と今後の事を話し合うようにしている		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在対象者がいないため、今の所、ターミナルケアを行う予定はないが、将来的には検討したい	○	
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族と良く話し合い、転居先とも充分話し合い本人のダメージを最小限にできるようにしている		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1．その人らしい暮らしの支援						
（1）一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護の為、常勤・パートに関係なく誓約書を書き、守秘義務を徹底している		

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分で決めたり、納得できるよう分かるまで時間をかけ、説明している	○	希望など個別で話し合える時間をもう少し増やしたい
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑの最も大切な部分だと考えているので、ご本人の希望を重視し、無理強いする事なくやりたい事を自分の力でできるように支援している		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容室に来てもらい、美容師さんと髪型を相談し合いながらｶｯﾄしてもらっている。化粧品などは希望があれば一緒に買いに行く		
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの１つとして一緒にﾒﾆｭｰを考えたり、希望を聞いて作ったりしている。配膳や片付けなどは無理のない程度にお願いしている		
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	その人の好みにあった飲み物を出している。薬の関係で飲酒はできないが、イベントのときに限りﾉﾝｱﾙｺｰﾙﾋﾞｰﾙを提供している		
56		気持よい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、必要に応じて本人のプライドを傷つけない程度に声掛けや介助を行っている		
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の無理強いはせず、個別入浴を基本とし、時には仲の良い人同士で入って頂いている。		
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居間、和室、談話室などくつろげるｽﾍﾟｰｽを作り、就寝前等に利用して頂いている		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日レクリエーションを行っている。また、個々の趣味に合わせて個別のレクも行っている		
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は現状では個人管理は難しく、「物盗られ妄想」により他入居者の不穏状態を招く為、ご家族に了解を得てホームでの立替払いをしている	○	
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候･気候をみて、ほぼ毎日散歩に出掛けている	○	外食など、全員一緒に外出する事が難しくなってきた為個人対応で行っている

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	コンサートなどを定期的に楽しんでもらっている。スタッフと個別で外出や外食をしている		
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症の症状を考えて電話をしたい場合はご家族に頼んでかけてきてもらっている。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の際は快く受け入れている		
（4）安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は今の所なし		
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無断外出してしまう入居者のご家族のご要望により、玄関に施錠している。また、窓から外出しようとする入居者がおり、怪我等を考え家族に相談し施錠している	○	
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に把握しており、見守りを強化し、注意している		
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗面台の石鹸等口に入れてしまう入居者がおり、使用する時のみ出すようにしている。掲示板も画鋲ではなくテープで対応している	○	
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修へ行ったり、専門の方をホームに招き、勉強したりと事故防止に取り組んでいる		
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成して対応できるようにしている。また、救急隊にご指導いただき、スタッフに応急救護の訓練をしてもらっている		

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っており、消防署より防災訓練の指導をして頂いている。防災ﾏﾆｭｱﾙを作成し、避難方法救助方法を徹底している	○	地域の人々の協力がまだ出来ていないので、今後の課題にしたい
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ご家族の来訪時に相談し、予測できる危険性についてお話している。また状況の変化は月に1度のお手紙でお知らせしている		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎月の申し送りを徹底し、連絡帳や掲示板を使って情報を共有している。また急な変化はかかりつけ医へ連絡し、指示を仰ぐようにしている		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬専門のﾌｧｲﾙを作成し、変更がある度に確認するようにしている。また、専門の薬剤師と連携を取り、相談している	○	薬剤師に協力していもらい、薬への知識を高める為に今後、研修会を開く予定
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給をしっかりし、食物繊維の多い物をなるべく摂るようにしている。また散歩で歩く事も予防として行っている		
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・夕の歯磨き、夜間は洗浄・消毒を欠かさず行っている。また週に1度の訪問歯科の際にご相談・指導をしていもらっている		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の体調に合わせ、刻み・流動食などで工夫をしている。水分もまめに摂るよう工夫している		
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し常に確認できるよう設置してある。入居者・スタッフ・来訪者の方にもうがい手洗いをしてもらっている		
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限の確認を徹底している。また、食器類は熱風消毒をしている		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
（1）居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ガーデニングをし、明るい雰囲気にしている		

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建設の段階で採光には特にこだわって設計しており、明るい日差しの入る建物になっている。食卓には季節の花を飾り、玄関には季節感のある飾りつけをしている		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室の前に談話室を設けてテレビ・お茶などを用意して自由に歓談できるよう配慮している		
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや思い出の品などを持参して頂き、入居前の生活とあまり変わらないように配慮している。お仏壇の持ち込みも許可している		
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は常に行っており、空調にも配慮している。また、匂いが気になる方には室内に芳香剤などを置き、対応している		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差の無いバリアフリー構造になっており、浴室・食堂・トイレなどには手すりがあり、安全な作りになっている		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	１人１人の症状やこだわりに合わせて、混乱・失敗を未然に防いでいる。居室やトイレには表示の工夫をしている		
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭への出入りはいるでも自由にできるようになっている。隣のユニットへも訪問し、レクや行事などで行き来している		

（様式1）

自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
自己評価	外部評価	タイトル	
Ⅴ．サービスの成果に関する項目			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者がころへ出かけている ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどいない

項目番号		項目	取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
自己評価	外部評価	タイトル	
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98		職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない